

## タウンミーティング議事要約

テーマ： シンクロニシティ-あるいは、すでに起きた未来-  
日時： 平成31年2月17日（日）午前10時～11時30分  
場所： 行徳文化ホール I&I 1階会議室  
参加者： 約50名

この回のタウンミーティングでは、参加者からの質問に Web 投稿を利用しました。  
議事要約に掲載している質問文は、投稿文をそのまま掲載しています。

<1>現在警備不足がささやかれています。「ロボット警備システム」の現状について教えてください。

黒田：

今現在は、まだ我々が開発中なのでロボット警備システムは存在していない。警備業界は、現在人手不足で大きく高齢化していることから、ロボット警備システムが人の仕事を奪うのではなく、全然やれていないところを何とか穴埋めするというのが現状である。

<2>介護ロボットの現状と市川市の導入予定について、現在回答できることがあればお願いします。

市長：

介護ロボットを市が直接買うということではなく、市は、例えば普及させるために、介護事業者がロボットを導入しようとしたときに、それに対する補助をするなどということは多分あり得るだろうと思う。

<3>黒田先生は映画のアイロボット、長谷敏司のビートレスをご存知ですか？ご存知であれば、その未来は可能だと思いますか？

黒田：

後半のビートレスはわからないが、アイ、ロボットというのはウィル・スミスが出ている、少し怖い話だと思う。

割とダークな未来が予測されるような話や、反対に、非常に楽天的な明るい未来が来ると言っている専門家もいるので、実際どちらが来るのか私にはわかりかねるが、実現はまだまだ非常に遠いのではないかとは思っている。

<4>前市長は、ガーデニングシティ、その前の市長は、健康都市、では村越市長のスローガンはありますか??

市長：

私はガーデニングも健康都市も進めようと思っている。大阪万博のテーマは ICT と健康ということなので、そういう意味では、本当に市川市の取り組みというのは非常に時代の先を行っていたのだと思う。今、市川市はいつも新しい流れがあると言っていて、私は本当にそれを具現化したいと思っている。

<5>ロボットの仕事が増えて人間の仕事が減っていくと、そこから「人間がすべき仕事」とは何だとお考えでしょうか。

黒田：

AI ができる仕事は、たくさんの昔のデータを統計処理して、たくさん集まった中で一番重要な内容はこれでしょうという処理をしている。日々やらなければいけないルーティンワークなどは全部自動化できるので、すごく便利になると思う。

ただ、まだ誰も経験していない新しいこと、未来のことを考えるのはやはりまだまだ人間の仕事で、未来の世界を考えて、それを実現していくにはどうするかというのを考えるのが人間の仕事ではないかと思う。

市長：

私もそのとおりだと思っている。やはり判断をする人の仕事というのは、AI や機械には多分置き換わらないだろうと思う。だから、人の仕事の効率がもっと上がって、皆が楽に、幸せになるために AI やロボットをどんどん活用していくべきだろうと思う。

黒田：

正しい判断をするための材料を提供してくれると思う。例えば、過去の失敗や成功などのデータを AI が抽出してくれれば、よりいい判断ができるようになる。

<6>阪神・淡路大震災の際には市川市の職員は直ちに現地に入り、問題点の把握を行い、その後のコンビニの活用、ロビーでの市の業務簡素化など IT 活用に於いて先進的な市であったと感じていたので、この 10 年程の低落ぶりが残念です。ホームページも内容的にも、技術的にも遅れていると感じています。

市長：

そのとおりで、今ホームページを改修し大幅なリニューアルを職員の皆が頑張っているの、少しお待ちいただきたいと思う。

<7>市長の考える市川市の魅力や強みを教えてください。また、抱える問題点なども知りたいです。

市長：

市川市の魅力というのは、やはり地政学的な特徴、東京の隣にあって、市民の皆さんが非常に洗練されていて、ポテンシャルがすごく高いところである。無理やり頑張らなくても、まちのレベルがずっと非常に高い水準にあるので、やはりいろいろな魅力、例えば緑も海も歴史と文化もあり、それを十分にフル活用して町の魅力をもっと前面に出していくことで、わが市川はもっと良くなると私は思っている。シティプロモーションもよくやらなければいけないと思うし、市民の皆さんの安心安全や子育てしやすい環境をもっと進めていくことで、さらに市川に住みたいと思う人が増えるだろう。市川にお住まいの皆さんは東京で働いている人が多いわけだが、「私は市川に住んでいるのだ」と、もっと自慢に思っただけだと思う。

問題点は、まだまだ待機児童も多いし、特養の順番待ちをされている方も多いことである。なかなか土地の価値が高いため、たくさん保育所をつくることも厳しくなっている。早く待機児童をなくし、高齢者の皆さんの安心安全のために必要な施設をつくることを進めていきたいと思う。

<8>市長がいなくても回る市政、大変面白い未来だと思います AI は価値判断しないものだと理解していますが、施策の評価はどう自動化できるのでしょうか？

市長：

施策の評価は、Aを取るかBを取るかという自動化はたぶんできるのかもしれないが、私はすべきではないのかもしれないと思う。例えば、機械的に判断をすればいいことというのはどんどん AI にしてもらって、その分職員は、他のことやればよっぽどいいわけである。

予算に縛りがある中で、高齢者向けの施策を先にするかこどもの対策を先にするかというのは、もう少し戦略的に誰かが責任を取らなければいけない判断が必要なところだと思う。これは常に対立するが、子育ての環境が整わないと高齢者を支える人たちもいなくなってしまいうわけで、実は高齢者の施策とこどもの施策というのは密接にリンクしている。

それをきちんと市長が、高齢者の皆さんにきちんと説明しながら、こどもの施策を進めますなどというのは、AI にはできないし、多分責任もとれない。市長が、それは AI が判断したので、私に文句を言わないでくださいと言っても、市民の皆さんは誰も納得しない。市民の皆さんは AI に投票しているのではなく、市長に投票しているので、市長の仕事が気に入らなければ、次の選挙で市長を落とすというところに民主主義の冥利があるので、そういう点でやはり自動化できないところがあるのではないかと思う。

<9>市川市議会を村越市長は見に来て下さいとよく言いますが、年に数回だけでも良いので日曜日開催してくれませんか？

市長：

いいご提案である。これは基本的に市議会で決めることだが、大事なご指摘だと思うので、ぜひ提案をしてみたいと思う。

<10>災害救助などロボットについてどう考えますか。

黒田：

実際に 3.11 以降、災害救助のためのロボットを研究開発する人も増えたとし、予算も増えた。ただ、災害救助をロボットでやるというのは根本的な難しさがある。というのは、ロボットに限らず機械は使い倒して、駄目なところを直してというのをやらないと本当にいいものにはならない。

ところが災害というのは何十年に 1 回くるが、くるたびに違う場所で違う条件の違うことが起こるので、その災害救助に役立つためのロボットを直接造るというやり方を、実は、僕は反対している。そのやり方では少しも改善できない。ですから、やはりロボットは日常的に使える、例えば原発だったら原発の中で常に整理整頓するようなロボットを動かしておいて、非常時になったらそれを使えるようにする。要するに、日常使えないものが非常時に使えるはずがないと私は思っている。

これは非常に重要ですが、やはりやり方をよく考えなければいけないのではないかという意見を、私自身は持っている。

【その他】開催中にとりあげることのできなかつた意見とそれに対する村越市長の回答。

<11>技術を進化させる上で、文化や歴史が淘汰されることが度々懸念されますが、そのような財産をいかにして守るか、何か案がありましたら、お教えてください

市長：

文化や歴史を大切にします。

<12>今回のテーマ「シンクロシティ」は、「同時性」、「共時性」等と日本語に訳される言葉ですが、どのような意味合いで使われているのでしょうか。

市長：

みなさんがそれぞれバラバラに夢みていることが現実になるという意味合いです。

<13>市内の公園にあるトイレの清掃の自動化ロボットの可能性はありますか？

市長：

人の手で掃除をしたほうがいいのではないかと。

<14>市長、市川市でこれからあればよいと思うロボットはどんなロボットですか？

市長：

コピーロボット。